

**CASBEE京都-新築(2011年版)**  
尾池工業樹上鳥羽西館

■使用評価マニュアル/CASBEE京都-新築(2011年)  
■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	評価点		重み係数	評価点	重み係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.7</b>
<b>Q1 室内環境</b>									<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>									<b>2.8</b>
<b>1.1 騒音</b>						2.8	0.15		
1.1.1 騒音						3.0	0.40		
1 室内騒音レベル						3.0	1.00		
設備騒音対策									
<b>1.2 遮音</b>						2.6	0.40		
1 開口部遮音性能						3.0	0.60		
2 界壁遮音性能						2.0	0.40		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
<b>1.3 吸音</b>						3.0	0.20		
<b>2 温熱環境</b>						2.6	0.35		<b>2.6</b>
<b>2.1 室温制御</b>						3.0	0.50		
1 室温						3.0	0.38		
窓荷熱・冷熱制御性									
3 外皮性能						3.0	0.25		
4ゾーン別制御性						3.0	0.38		
5 温度・湿度制御									
6 個別制御									
7 時間外空調に対する配慮									
8 監視システム									
<b>2.2 湿度制御</b>						1.0	0.20		
<b>2.3 空調方式</b>						3.0	0.30		
<b>3 光・視環境</b>						3.0	0.25		<b>3.0</b>
<b>3.1 昼光利用</b>						3.0	0.30		
1 昼光率				●自然	A(全国版準用)	3.0	0.60		
2 方位別開口									
3 昼光利用設備				●自然	B(推奨内容)	3.0	0.40		
<b>3.2 グレア対策</b>						3.0	0.30		
1 透明器具の外装									
2 昼光制御				●自然	B(推奨内容)	3.0	1.00		
3 障り込み対策									
<b>3.3 照度</b>						3.0	0.15		
<b>3.4 照明制御</b>						3.0	0.25		
<b>4 空気質環境</b>						3.5	0.25		<b>3.5</b>
<b>4.1 発生源対策</b>						4.0	0.50		
1 化学汚染物質						4.0	1.00		
2 気体汚染物質									
3 気体汚染物質									
4 汚染物質対策									
<b>4.2 換気</b>						3.0	0.30		
1 換気量						3.0	0.33		
2 自然換気性能				●自然	A(全国版準用)	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33		
4 給気計画									
<b>4.3 運用管理</b>						3.0	0.20		
1 CO <sub>2</sub> の監視						3.0	0.50		
2 喫煙の制御						3.0	0.50		
<b>Q2 サービス性能</b>							0.30		<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>						3.2	0.40		<b>3.2</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>						3.0	0.40		
1 広さ・収納性						3.0	0.33		
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.33		
3 バリアフリー計画				●大切	D(独自基準)	3.0	0.33		
<b>1.2 心理性・快適性</b>						3.3	0.30		
1 広さ感・景観				●とも	C(独自加点)	4.0	0.33		
2 リフレッシュスペース				●とも	D(独自基準)	5.0	0.33		
3 内装計画						1.0	0.33		
<b>1.3 維持管理</b>						3.5	0.30		
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50		
2 維持管理用機能の確保						4.0	0.50		
<b>2 耐用性・信頼性</b>						2.9	0.31		<b>2.9</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>						3.0	0.48		
1 耐震性						3.0	0.80		
2 免震・制振性能						3.0	0.20		
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>						3.0	0.33		
1 躯体材料の耐用年数				●大切	A(全国版準用)	3.0	0.23		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.23		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.09		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.08		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						3.0	0.15		
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.23		

2.4 信頼性					2.8	0.19			
1	空調・換気設備				1.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3	電気設備			非常用発電設備あり、地下空間の設備設置なし	4.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備				3.0	0.20			
3 対応性・更新性					3.1	0.29			3.1
3.1 空間のゆとり					3.6	0.31			
1	階高のゆとり			基準階の階高は、3.7m以上3.9m未満	4.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.31			
3.3 設備の更新性					3.0	0.38			
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17			
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11			
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.22			
6	バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30			2.1
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.0	0.30			2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも 自然	A'(全国版準用)		2.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-			3.1
LR1 エネルギー					-	0.40			3.1
1 建物の熱負荷抑制					2.0	0.30			2.0
2 自然エネルギー利用					3.5	0.20			3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用	●自然	A(全国版準用)	条列により、太陽光発電設備を設置	4.0	0.50			
3 設備システムの高効率化					4.3	0.30			4.3
集合住宅以外の評価(ERRによる評価)					4.0				
集合住宅の評価					4.0				
4 効率的運用					3.0	0.20			3.0
4.1	モニタリング				3.0	0.50			
4.2	運用管理体制				3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30			3.2
1 水資源保護					3.4	0.15			3.4
1.1 節水				節水コマ、省水型機器(擬音、節水型便器等)を	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.67			
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減					3.2	0.63			3.2
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.07			
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20			
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		3.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.05			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)	再利用できるユニット部材(OAフロア)を採用	4.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.22			3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.68			
1	消火剤				-	-			
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			
3	冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境					-	0.30			3.0
1 地球温暖化への配慮					3.6	0.33			3.6
2 地域環境への配慮					2.4	0.33			2.4
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.6	0.25			
1	雨水排水負荷低減				-	-			
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.33			
3	交通負荷抑制				3.0	0.33			
4	廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.33			
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1	騒音				3.0	0.50			
2	振動				3.0	0.50			
3	悪臭				-	-			
3.2 風害、日照障害の抑制					3.0	0.40			
1	風害の抑制				3.0	0.70			
2	砂塵の抑制				-	-			
3	日照障害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					3.0	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●大切	B(推奨内容)		3.0	0.30			

記号凡例 ●: 重点項目 ○: 低炭素景観創出に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」: 大切に使う 「とも」ともに使う 「自然」: 自然からつくる